

秋田屋本店、実店舗計画

創業220年で初、来春にも

養蜂・食品製造の秋田屋本店（岐阜市加納富士町）は創業220年で初となる実店舗を出店する計画を進めている。来年春にも市内に店舗を整備し、一般消費者向け商品の販売を強化する。店舗販売を通して商品や同社のブランドイメージを高め、売上高に占める自社商品の割合を将来的に10%以上に引き上げたい考え。

（松浦健司）

や国内観光客向けに、店舗で養蜂や蜂蜜に関する体験コーナーを設置して岐阜の養蜂文化を発信することで、需要の掘り起こしにつなげる狙いもある。

一般消費者向け販売強化

同社は1804（文化元年）に材木商として創業。87（明治20）年に養蜂事業に参入し、現在は食品メーカーなどへの蜂産品販売とOEM（相手先ブランドによる生産）が売上高の柱となっている。ただ、メーカー販売とOEMは取引先の動向によって業績が左右されることから、近年はパンに塗って食べる専用はちみつ「雪白」など一般消費者向け商品の開発にも力を

入れ、自社のオンラインショップで販売している。実店舗について、中村浩康社長は「ウェブでは（高齢者など）リーチできない層がいる。店舗で商品に触れて食べてもらうことでファンを増やしたい」と意気込みを語った。

市周辺は近代養蜂発祥の地と呼ばれ、現在も複数の養蜂業者が本社を構える全国屈指の集積地となっている。インバウンド（訪日客）